

訪日消費 年3兆円超へ

7~9月 客数・金額とも最高

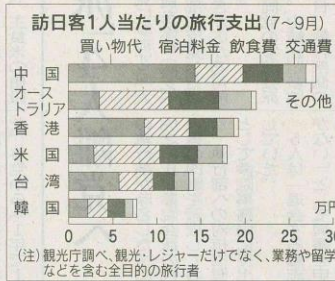
訪日外国人による消費が力強さを増している。観光庁が21日発表した7~9月の消費額は前年同期比82%増の1兆9億円となり、四半期として初めて1兆円の台にのった。訪日客が534万人と最高を更新し、1人当たり支出も前年同期比18%増えた。円安や免税品の拡大を背景に、消費は3兆円を超える勢いだ。中国景気の減速でどこまで持続するかは不透明だ。

円安・免税拡大追い風 中国客頼み 持続力懸念も

旅行消費額は1~9月の通年実績で2兆円超。消費額は3兆円を超える。増の2兆5900億円に。の累計で前年同期比77%をすでに上回った。観光庁の田村明比古長官は同日の記者会見で「今年の理由は訪日客そのものの前年同月比47%増の16



銀座で買い物をを楽しむ訪日中国人客ら(東京都中央区)



1万人。観光庁によると今年1月から累計は10月9日時点で1500万人を突破。昨年の通年実績(1341万人)を上回り、年間で2000万人の到達が視野に入

訪日客1人当たりの旅行支出も増えている。中国人客は7~9月に前年同期比19%増の28万円を支出。このうち18万円を買い物代に充てた。観光・レジャー目的の中国人の日本での宿泊日数は平均6.1泊となり、前年同期の5.7泊から拡大。旅行期間の長期化が1人あたり消費の増加につながったとみられる。

小売りの売り場では日本人の消費意欲が訪日客が目立つ。日本百貨店協会がまとめた9月の訪日客の購入額は前年同月の2.8倍。家電や衣料品などに限定された免税品に高島屋は中国の国慶節(建国記念日)に伴う大型連休(10月1~7日)の期間に、中国人客による免税売上高が前年同期の2倍を超えた。スキンケア商品を中心とした化粧品が好調で、全体の4分の1を占めた。

訪日客消費は為替の影響が大きいとみられ、みずほ証券は「1%の対円で円高で訪日客数は0.6%減り、1人あたり消費は0.8%減る可能性がある」と分析する。訪日客消費の47%は中国人が担った。田村観光庁長官は「中国訪日客」一辺倒では持続的ではないと警戒する。これまでの訪日客増は中東呼吸器症候群(MERS)で韓国旅行を敬遠した中国が訪れる中国人観光客は9月に日本を上回るまで回復しており、今後は競争が激しくなる」とみ

訪日客「外需」下支え

モノ・サービスの輸出補う

訪日外国人による消費が好調なのに対して、海外へのモノやサービスの輸出は低調だ。財務省が21日発表した貿易統計速報によると、9月の輸出額は前年同月比0.6%増えたものの、中国向けは3.5%減少した。中国景気減速の影響がアジ

9月に全体で3.9%減少した。鉄鋼が10.9%減ったほか、半導体などの電子部品が8.1%減った。中国向けが5.7%減ったことが大きく、アジア全体でも4.2%のマイナスだった。伊藤忠経済研究所の武田淳主任研究員は輸出の先行きについて「東南アジアの需要が回復しなれば、輸出数量の伸びは見込みにくい」と話す。政府が国内総生産(GDP)を計算する際には「外需」と位置づけ、個人消費ではなく輸出の一部として計上している。日本のこの数年の輸出は70兆~80兆円程度。訪日客消費が年3兆円規模になると、今年はGDP統計上の輸出の4%前後を占める可能性がある。GDPの6割を占める日本人の消費(約300兆円)と比べると、1%程度にとどまるが、訪日客消費が輸出不振の部分を補う構図になる可能性がある。